

# 平塚の石仏めぐり

## 22. 大神・吉際編



大神正安寺 如意輪観音 血盆経塔

### 大神・吉際の石仏

大神・吉際は平塚市の北東部に位置し、西は伊勢原市小稲葉、北は厚木市戸田、東は相模川をはさんで寒川町と接しています。『新編相模國風土記稿』によると、天保年間の戸数は大神村 104 戸、吉際村 13 戸でした。かつては水田地帯でしたが、開発が進み、現在は大型商業施設もできました。

大神は厚木道沿いに集落があり、北から上町、中町、西町、宿町、七軒町、十三軒町の町内に分かれています。吉際は稲荷神社の南に旧家が並び、中町と呼ばれています。

大神の主な寺社は 5 寺 1 社あり、それぞれの境内には多くの石仏があります。特徴的な石仏を挙げます。正安寺の如意輪観音は、血盆経供養塔になっています。真芳寺にも如意輪観音があり、女人講中によって建てられました。観音寺の聖観音は、孕み観音と呼ばれ、安産祈願が行われていました。また、寄木神社の庚申塔には、市内最多の 200 字余の銘文があります。

路傍には、道祖神や馬頭観音、庚申塔が祀られています。道祖神は 7 か所に 8 基あり、そのうち 5 基が単体像です。馬頭観音は 4 基のうち 3 基が路傍に祀られています。庚申塔は 4 基のうち 2 基が路傍に祀られています。この 2 基には道標銘があります。大神には厚木道が通っていたこと、大山道が通る小稲葉に隣接していたためでしょうか。

吉際には、稲荷神社境内をふくめ 2 か所に石仏が祀られています。市内では数少ない山の神があります。

### 石仏豆知識 17. 観音菩薩

観音は正式には観世音菩薩、あるいは観自在菩薩と言います。私たちが困難な目にあつたとき、一心に観音の名を唱えれば、その声を聞いて救いの手をさし伸べてくれると言われています。観音は地蔵とならんで人々に親しまれてきた仏さまで、石仏もお寺の境内などにたくさん建てられています。

観音は 33 の姿を持ち、救いを求める人々に合わせ、形を変え現れると言われます。石仏では、聖観音や如意輪観音など単独で造立されることもあります。六観音や七観音として造立されることもあります。

聖観音は基本的な姿で、石仏の造立数ももっとも多く、文字塔も含めて 73 基あります。一面二臂の菩薩像で、左手に未敷蓮華を持っています。立像と坐像があります。立像には土屋の人増自治会館（元禄年間）や豊田小嶺の薬師堂境内（元禄 15 年（1702））などがあります。坐像には広川の善福寺（寛政 7 年（1795））などがあります。

次に多いのは如意輪観音で 29 基あります。片膝を立て、頬杖をつく姿が特徴的です。女性の講中によって建てられることが多い石仏です。大神の正安寺にある如意輪観音（享保 4 年（1719））は、血盆経供養の石仏です。同じ大神の真芳寺の如意輪観音（享保 11 年（1726））は女人講中によって建てられています。

観音霊場などで数多く見られる千手観音や十一面観音もあります。平塚市内では石仏の建立数は少なく、城所の浄心寺に千手観音（年代不詳）や出縄観音堂の十一面観音（年代不詳）などがあるくらいです。

六観音、七観音として建立されることもあります。市内には岡崎の紫雲寺や豊田本郷の清雲寺に七観音があります。紫雲寺の七観音は、准胝観音、不空罽索観音、如意輪観音、聖観音、馬頭観音、十一面観音、千手観音の七基で、造立年はともに不詳です。

### 大神の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	大神十三軒通路傍	大神 1681	道祖神・巡拝塔
2	小菅自動車前路傍	大神 1703	道祖神、馬頭観音
3	大神十三軒町屋敷塚	大神 1847	御岳社
4	大神中町路傍	大神 1949	道祖神
5	大神中町路傍	大神 1972	庚申塔・地神塔・道標
6	正安寺	大神 2045	観音・巡拝塔、地蔵、観音・血盆経塔、地蔵・念仏供養塔、馬頭観音・地蔵、宝篋印塔
7	般若院	大神 2076-1	六地蔵、宝篋印塔、地蔵、徳本名号塔
8	大神門前町路傍	大神 2111	庚申塔・道標
9	大神橋場町桜橋脇	大神 2115	道祖神
10	真芳寺	大神 2138	巡拝塔、地蔵、観音他



令和 5 年平塚市発行都市計画地図に加筆

番号	名称	住所	主な石仏
11	大神上町路傍	大神 2147	馬頭観音、地蔵
12	隆盛寺	大神 2160	道祖神、題目塔多数、観音
13	大神西町路傍	大神 2350	道祖神
14	観音寺墓地	大神 2721	万霊塔
15	観音寺	大神 2741	宝篋印塔、観音、庚申塔、念仏供養塔、六地蔵他
16	寄木神社	大神 2746	道祖神、手水石、庚申塔
17	稲荷社	大神 3463-2	水神
18	稲荷神社	吉際 63	庚申塔、天神他
19	山の神	大神 432 畑中	山の神

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和 3 年集計時点のものです。

**石仏めぐりを行う場合の心掛け**  
 石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（22. 大神・吉際編）  
 発行日：令和 7 年 1 月  
 編集：石仏を調べる会  
 発行：平塚市博物館  
 住所：神奈川県平塚市浅間町 12-41  
 電話：0463-33-5111

十三軒町路傍の道祖神・巡拝塔 (地図番号①)

僧形の合掌像です。像の右側の銘文には「奉供養秩父同行九人」とあります。秩父三十四ヶ所観音巡礼は18世紀に盛んになり、市内にも多くの観音供養塔が建てられています。多くは観音像で、道祖神はここだけです。

左上が欠けているのが惜しまれますが、彫がしっかりしていて顔の表情までよくわかります。元文5年(1740)造立で、小屋の中に多数の五輪塔残欠とともに祀られています。



道祖神 巡拝塔 (元文5年)

大神中町路傍の庚申塔・地神塔・道標 (地図番号⑤)

駐車場の片隅に忘れられたように建っています。塔正面には「庚申塔」、左面には「地神塔」、右面には「明治三庚午年四月吉日 右大山道」(1870)とあります。この町内では、庚申講と地神講を兼ねて行っていたようです。

大山道標を兼ねています。現在は家が建ち並び、新幹線の高架もありますが、かつてはここからも大山がよく見えていました。



庚申 地神塔 (明治3年)

正安寺の石仏 (1) (地図番号⑥)

正安寺の宗派は浄土宗で芝増上寺の末寺です。起立の年代は天文2年(1533)の戦国時代中期で開山は南蓮社忍誉上人恵慶です。

如意輪観音 巡拝塔 この如意輪観音は宝暦3年(1753)の造立で、「奉供養秩父三十四箇所観世音菩薩・・・」と銘が刻まれています。

如意輪観音は半跏(片足を他の片足にのせた姿勢)に坐し、右手は肘を右膝あたりに置いて頬のあたりに添え、左手は自然に下げて掌を下に向け膝よりやや上あたりに置く半跏思惟の姿をしています。

「信劬高遠上山田村 大工 小池磯右衛門 作」の銘もあり完成度のとても高い観音さまです。

地藏 左の手のひらに宝珠を乗せ、右手で錫杖を握っています。お顔は横一文字の目に下膨れです。身体は七頭身の均整の取れた体型で延宝4年(1676)に造立された、紀年銘の分かる地藏としては市内で15番目に古いお地藏さまです。



如意輪観音 (宝暦3年)



地藏 (延宝4年)

正安寺の石仏 (2) (地図番号⑥)

如意輪観音 血盆経塔 この観音さまは、浄土宗や曹洞宗の僧侶で広められた血盆経信仰の供養塔で、全国的にも珍しく平塚市域で唯一のものです。

血盆経とは出産で亡くなった女性を血の池地獄から救う経典です。銘文によれば、地藏講に集う136人が現世と来世の安楽を願って享保4年(1719)に造立したとあります。今でもたくさんのお花が供えられており、大切にされていることが知れます。

舟に乗った馬頭観音 境内左側に立派な舟に乗った馬頭観音があります。この舟と馬頭観音は別々に作られたもので、舟には享保5年(1720)、馬頭観音には安永6年(1777)の銘があります。

台座を舟とする石仏は享保4年から10年の7年間に大流行した岩船地藏信仰の影響と思われる、「地藏念佛同行 百八十六人」とあり、大勢の村人が信仰していたことが分かります。

この舟には元は地藏が乗っていましたが、何らかの事情で消失し、のちに馬頭観音が乗せられたものと思われる。



如意輪観音 血盆経塔 (享保4年)



馬頭観音 (安永6年) 舟 (享保5年)

般若院の石仏 (地図番号⑦)

光明山般若院は古義真言宗の寺院で本尊は不動明王です。入口に「陣屋跡」の石碑と説明板が立っています。

徳本名号塔 自然石に独特の書体で「南無阿弥佉佛」、左側に「徳本」と徳本上人の花押が刻んであります。

市内には27基ありますが神田地区ではこの塔1基のみです。

徳本上人由来の大会念仏は木魚と鉦をたたき大声で念仏を唱えます。般若院では名号塔の前にムシロを敷いてお念仏や御詠歌をあげていました。

台石は剥落していて「□□□中」としか判読できません。造立は天保3年(1832)です。

六地藏 入口右側に六地藏が祀られています。六体の丸彫り立像で、持ち物は向って右から合掌、幡、念珠、未敷蓮華、柄香炉、錫杖と宝珠となっています。

左端の台石正面には、大施主として8人程の名前があり、その内少なくとも6人は、「禅定尼」「禅定門尼」となっていて、在家の女性関わっていたことがわかります。造立は、宝暦8年(1758)です。



徳本名号塔 (天保3年)



六地藏 (宝暦8年)

真芳寺の石仏 (地図番号⑩)

大上山と号し禅宗の寺院で、本尊は釈迦牟尼仏です。寺と砦を兼ねた北条氏の一拠点であったと伝えられており、入口に「砦の跡」の石碑と説明板が建っています。

如意輪観音 境内右側奥に享保11年(1726)に造立された高さ170cmの如意輪観音が建立されています。

光背の上部に修復の跡が見られ、一面二臂でお顔は欠け、左手は欠落しています。右手を頬にあてた思惟像は、力強く大胆に彫られた龍と雲の上ののっており、碑文に「相芻大神村観音供養女中講中」とあります。

如意輪観音は、江戸時代中期に女性に信仰され、講が盛んに行われました。

巡拝塔 境内右側に出羽三山供養塔が祀られています。高さ66cmの塔正面中央に大きく「湯殿山」、右に「羽黒山」、左に「月山」と刻んであります。

右面に「念仏講□□□」「相芻大住郡大神村」の碑文があり出羽三山霊場を参拝した記念に建てられた塔です。出羽三山供養塔は市内に10基あります。



如意輪観音 (享保11年)



巡拝塔 (年代不詳)

隆盛寺の題目塔 (地図番号⑫)

隆盛寺は大神山と号す日蓮宗の寺院で、題目塔が5基あります。

独特な書体の「南無妙法蓮華経」は、「法」以外の六字の筆端を髭のように延ばして書くところから髭題目と呼ばれています。

山門左側の享保10年(1725)建立の塔に回向文が刻まれ、右側の安永5年(1776)の塔には「五百遠忌」「倡一千部成就」と刻まれ、題目一千部を果した記念に建立されています。



題目塔 (享保10年)

大神西町路傍の道祖神 (地図番号⑬)

西町の道祖神です。烏帽子を着けた単体の合掌像です。やや小ぶりですが、彫がしっかりしています。

現在は木造の小屋に祀られていますが、かつては藁で仮小屋を作り、1月14日に燃やし、1月24日に藁を持ち寄って新たに屋根を葺いていました。銘文には「宝暦三年正月廿四日」(1753)とありますが、この日は、仮小屋の葺き替えの日にあたります。



道祖神 (宝暦3年)

観音寺墓地の五輪塔型万霊塔 (地図番号⑭)

観音寺の墓地入口の三界万霊塔は昭和32年(1957)の建立です。

水輪の正面に大日如来を表す梵字の「唵」、地輪の正面には「三界万霊」、右面に「願以此功德 普及於一切」、左面に「我等與衆生 皆共成佛道」の回向文が刻まれています。

三界とは欲界・色界・無色界の三つの総称で、三界のすべての精霊に対して安らかな眠りを願う供養塔です。



万霊塔 (昭和32年)

観音寺の孕み観音 (地図番号⑮)

観音寺は寄木神社の別当寺でしたが、明治維新後は、神田寺(横内)が兼務しています。

総高263cmの大きな聖観音は享保2年(1717)に12人の講中によって建立されました。お腹がふっくらとしているところから、「孕み観音」と呼ばれ、身籠った女性が世話人とともに観音の腹部にサラシを巻いて安産を祈願し、このサラシを出産まで腹帯として用い、出産後お礼参りをする風習がありました。



孕み観音 (享保2年)

寄木神社の庚申塔 (地図番号⑯)

寄木神社は大神の鎮守です。祭神は大己貴命です。

笠付の三猿庚申塔です。高さは3m近くあり、平塚市内では最大です。四面の銘文には庚申のいわれを示す200文字が刻まれ、市内の庚申塔では最も長文になります。

「月舟野納記」とあり、銘文の作者は真芳寺三世月舟松鶴大和尚です。寛文4年(1664)の造立で、かつては近くの畑の隅にありました。



庚申塔 (寛文4年)

吉際路傍の山の神 (地図番号⑰)

大神の畑の畔にありますが、吉際の個人宅で祀っています。もとは木造の社でしたが、明治23年(1890)に石碑を建てたそうです。

霊験あらたかで、手で触れてはいけないと言われています。銘文には「妙法山神三社大権現」とあります。

平塚市内では山の神の石造物は少ないですが、山林の多い下吉沢で石祠が祀られているほか、平地でも吉際の石碑のほか、横内の石祠、四之宮の山神宮の神像があります。



山の神 (明治23年)